# めいろうこどもえん　12月園だより

## ２０２２年度　年主題〈つながって～今、わたしを生きる～〉

### 0･1･2歳児12月主題「うれしいね」

*月のねがい*

◎クリスマスを保育者・友だちと一緒に待ちイエス様のお誕生を喜ぶ(0)◎保育者のまねをしたり、言葉をかけてもらいながら過ごす(0)◎暖かな雰囲気の中でクリスマスを感じ絵本やさんびかに親しむ(0)◎保育者や友だちとクリスマスを楽しみに待ち、祝う(1.2)◎保育者に見守られながら自分でできることが増える(1.2)◎絵本やさんびか、装飾などを通して、クリスマスの雰囲気を味わう(1.2)

### 3･4･5歳児12月主題「喜びあふれて」

*月のねがい*

◎イエス様が一人ひとりのためにお生まれ下さったことを知り喜ぶ(3)◎賛美や聖書のみことば、ページェント、祝会どを通して、イエス様のお誕生の意味を思い、友だちや家族と一緒に喜びを分かち合う(3)◎寒さの中でも戸外で体を動かし、友だちや保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ(3)◎イエス様が私たちのためにお生まれくださったことを喜び合う(4.5)◎クリスマスの喜びや感謝を周りの人たちと分かち合うことで恵みが増していく体験を重ねる(4.5)◎友だち・保育者・家族と「共に」礼拝する（4.5）

## 今月の聖句

「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2：11

今年も残り一ヶ月となりました。いよいよクリスマスがやってきます。教会暦では、１１月２７日の日曜日からクリスマスの日１２月２５日までの期間を「待降節」とか「クリスマス・アドベント」と呼ぶ習慣があります。「待降節」とは、私たちの救い主であられるイエス・キリストの降誕を待ち望む期間です。教会では、１２月２５日のクリスマスまでに４つの日曜日を費やして、各週に一本ずつろうそくに火を灯します。１１月２７日には一本目のろうそくに火がつきます。次の週の日曜日には二本、その次には三本、クリスマス直前一週間前の日曜日１２月１８日には四本目を灯します。そのようにしてクリスマスが来るのを心待ちにするのです。

アメリカなどでは、各家庭に本物のクリスマスツリーを飾ります。そして、ツリーの周りに家族へのクリスマスプレゼントを置いていきます。一つや二つではありません。大小の沢山のプレゼントが積まれていきます。子どもたちはそれを見て、心躍らせ、クリスマスの日が来るのをまだかまだかと首を長くして待つのです。大人も子供も待つのは苦手かもしれません。けれども、人類は空想の夢物語の中で待ったのではなく、人間の歴史の中に現に降りてきてくださったイエス・キリストの降誕を待ったのだということ、待ち望むという忍耐が、現実となったというところにクリスマスの意義があります。

今年もそのようなクリスマスが近づいて来ました。どんなに世の中が暗く闇のようであっても、そこに光をもたらす救い主がおられます。辛く悲しい日々の歩みにも、そこに寄り添うイエスさまがおられます。メリー・クリスマス！　　協力牧師　池田基宣

## １２月の行事予定

| | |
|---|---|
| ３日（土） | クリスマス会 |
| ９日（金） | もちつき大会 |
| １３日（火） | 絵本の会クリスマス公演 |
| １４日（水） | １２，１月誕生会・試食会 |
| ２０日（火） | 終園式（1号:午前保育） |
| ２８日（水） | 御用納め（弁当日） |

## １月の行事予定

| | |
|---|---|
| ４日（水） | 御用始め |
| １１日（水） | 始園式(1号:午前保育) |
| １４日（土） | 役員会 |
| ２０日（金） | おゆうぎ会予行(弁当日) |
| ２８日（土） | おゆうぎ会 |
| ３０日（月） | 振替休日 |

**１号認定児**
**入園申込み受付開始**
**１２月１日（木）**
ご紹介を宜しくお願いします！

兄弟にほほえみかけ、助けの手を
差し伸べるたびに、
それがクリスマスなのです。

マザー・テレサ

## 「できた」「うれしいね」

少しずつ肌寒くなり、こども園はだんだんとクリスマスムードになってきました。クリスマスツリーにあかりが灯り、クリスマスが待ち遠しい子どもたちです。

今年はあじさい組はスモックで登園・降園してみています。初めはスモックのボタンを付けるのも外すのも苦戦し、「できなーい！」と引っ張っている子もいました。でもお友だちが頑張る姿を見たり、保育者と「今日はコレだけやってみよう！」と一緒にボタンを外してみたり、毎日少しずつ頑張りました。そして先日、「せんせい、見て！できた！」とHくん。なんとボタンを3つとも自分で外すことができました。「うん！見てたよー、やったね！」と応えると、その嬉しそうな表情の可愛いこと可愛いこと♡

ゆっくり見守り、励ますことは簡単なようでなかなか難しいことです。特に家庭では、大人が手を出しすぎてしまうことも（私も家で「早く！」「急いで！」が口癖です…。）ありますね。心にも時間にもゆとりを持って見守ることの大切さを実感しました。日々少しずつ成長や喜び、気づきや発見している子どもたちに関わったり、一緒に共感することができてとても嬉しく思っています。これからも子どもの思いに寄り添っていけたらと思います。

クリスマス会まであとわずかとなりました。イエス様の聖誕劇ではセリフや動きを覚え、そしてそれぞれの役の思いや気持ちを考えながらお稽古に取り組んできました。小さい子どもたちも、それぞれにクリスマスをお祝いし表現します。人前に立つことはとても緊張するかと思いますが、温かく見守っていただけたら幸いです。一緒にクリスマスを喜び合える日となれば嬉しいです。素敵なクリスマス会になりますように。

大河

～クリスマス会～

～消防サンタ～

～もちつき～

～みんな大好き！バイキング～

## 最高の贈り物　クリスマス

深まる冬の到来と共に、様々な出来事を思い返す季節を迎えます。何と言っても、ロシアのウクライナ侵攻は衝撃的なニュースでした。今も多くの人々が命を失う中、国連やNATOも解決の糸口が見いだせない状況が続いています。早いもので、今年もあと一月。キリスト教会の暦で言う待降節『アドベント』に今週入りました。クリスマス会に向けて、礼拝での園長の聖話は、クリスマスにちなんだお話です。ここ三年ほどは、この欄でそれを皆さんに紹介しています。今年は、ご存じO・ヘンリーの、「賢者の贈り物」にします。

ニューヨークに貧しい夫婦がおりました。明日はとうとうクリスマス。妻のデラはつぶやきます。「たった1ドル87セント」これは彼女が毎日必死にためたお金の全部。これじゃ夫のジムに素敵なものを買ってあげたくてもどうしようもない。でも彼女には宝物が一つだけありました。それは誰もが羨む長くて美しいとび色の髪。「そうだわ、これを売ろう。」髪は、20ドルになりました。これで21ドル87セントになりました。

一方、ジムにも大切にしている宝物の金時計がありました。でも革紐がぼろぼろになっています。「あの金時計に合う上品な鎖がいいわ。」デラは全ての店を見て回り、とうとうプラチナの鎖を買い求めました。帰ってきた夫のジムはデラの髪を見て、何ともいえない表情を浮かべてじっとデラを見つめていました。「あなた、そんなふうに私を見ないで。髪の毛を切って売ってしまったの。私の髪は伸びるのがとても早いのよ！」ようやくロを開くことができたジムはこう言います。「さあ、その包みを開けてごらん。どうして僕がさっきぼんやりしてしまったか、そのわけが分かるから。」渡された包みの紐を解き、やがて泣き出すデラ。そこには、かつて彼女が憧れていた髪の横と後ろにさすべっこうのくしのセットでした。無くなってしまったあの髪にとてもよく似合う色の…。ひと泣きして気を取り直したデラは言います。「私の髪ってすぐ伸びるのよ、それより私あなたの時計の鎖を買ったの。時計を貸してみて。このくさり、時計に付けたらどんなに素敵か見てみたいわ。」ジムは、両手を頭の後ろに組んで、ほほえみながら言いました。「プレゼントは片付けようよ。お互い、今すぐ使うにはもったいなさすぎるよ。実は、くしを買うお金を作るために時計を売っちゃったんだよ。さあ、肉に火をかけたら？」

作者は最後にこう言います。「聖書に出てくる三人の東方の博士（賢者）たちは、馬小屋で生まれた救い主に贈り物を献げました。最初のクリスマスプレゼントです。この物語は最も大切な宝物を最も賢明でない方法で、互いのために犠牲にした愚かな二人のお話です。贈り物をする人々の中で、この二人こそ最も賢明な人、現代の当方の賢者なのです。」

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い過ごしていきたいと思います。これから寒さも深まり、コロナと共にインフルエンザの感染にも注意が必要です。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになられますようお祈りいたします。

園長

## クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス･キリストの誕生を祝う日です。約２千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たち、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教保育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きていってほしいと願い、祈ります。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人が選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

## サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、４世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に”おばあさんのスープ”という絵本があります。（女子パウロ会出版）

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたと言うお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。 それは、あなたも私もみんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。